# 令和７年度　人権教育研究推進事業　＜人権教育研究指定校事業＞

| | | | |
|---|---|---|---|
| 都道府県・指定都市名 | 東京都 | 学校名 | 台東区立千束小学校 |

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 人権課題 | 子供 | 対象学年・取り扱った教科等 | 第４学年・総合的な学習の時間 | 時数等 | ２０時間 |

| | |
|---|---|
| 目標・人権教育のねらい | ・幼稚園児との交流を通して、幼児との関わり方について理解を深めるとともに、幼稚園のためにできることを考え、他者へ貢献しようとする態度を育てる。<br>・「千束幼稚園のためにどんなことができるか」という課題解決に児童一人一人が主体的に参加し、協働的に活動することを通して、積極的に他者へ貢献しようとする態度を育てる。 |
| 実施した内容 | ・幼稚園で行う発表や遊びに参加し交流を深める。（課外）<br>・園児との関わりを振り返り、課題を見いだし、解決の方法を考え、交流の計画を立てて実施する。（７時間）<br>・２回目の交流を計画・実施し、気付いたことや考えたことをまとめて発表する。（８時間）<br>・これまでの学習の分析や幼稚園の先生へのインタビュー等を通して、幼稚園の良さを伝える方法を考え実施すると共に、様々な人のためにできることを考えてまとめる。（５時間） |
| 工夫した点 | （指導上の工夫）<br>・話合いをする時には、思考の可視化ツール（タブレット端末や付箋等）を活用することで、友達とコミュニケーションを取りながら、自分の考えを表現したり、相手の思いや考えを受け止め、自分ごととして考えられるようにした。<br>・ゲストティーチャーを招いて話を聞いたり、体験学習をしたりすることで、身近な課題として考えられるようにした。<br>（地域や関係機関との関係）<br>・併設幼稚園との交流を図り、複数回に渡って園児と関わることで、実感を伴いながら他者への関心を高められるようにした。<br>・幼稚園教諭へのインタビュー等を通して、様々な立場からの思いや課題を知ることで、積極的に他者へ貢献しようとする態度が身に付くようにした。 |

# 令和７年度　人権教育研究推進事業　＜人権教育研究指定校事業＞

| | |
|---|---|
| 他教科との関連 | ・第１学年の生活科では、併設幼稚園や近隣幼稚園・保育園と交流を図った。<br>・第５学年の学級活動では、併設幼稚園との交流を深めた。 |
| 事業成果 | ・知識的側面<br>「他者へ貢献する意義の理解」<br><br>・交流を通して、相手の立場になって出来ることを考える大切さが分かった。<br>・幼稚園の先生たちが、園児のために色々なことを考えていることを知って、自分も幼稚園のためにできることを考えた。実際に、幼稚園をアピールする活動をしたら、多くの保護者の方が聞いてくれて、「みんなが子供たちのことを考えて過ごしているんだ」ということを理解した。<br><br>・価値的・態度的側面<br>「多様な他者との共生社会の実現を目指して、自分たちにできることを考えようとする態度」<br><br>・自分以外の人も大切にしていきたい。<br>・これからも幼稚園児と遊んだりして、困っていることがあったら助けたい。<br><br>・技能的側面<br>「課題に必要な情報を集め、その情報を整理・分析し、相手に伝わるように発表したり、相手の考えを受け止め自分ごととして考えることができる。」<br>事業開始時　８５％　　→　事業終了間際：９０％ |

# 令和７年度　人権教育研究推進事業　＜人権教育研究指定校事業＞

| | | | |
|---|---|---|---|
| 都道府県・指定都市名 | 東京都 | 学校名 | 台東区立千束小学校 |

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 人権課題 | 高齢者 | 対象学年・取り扱った教科等 | 第４学年・総合的な学習の時間 | 時数等 | １３時間 |

| | |
|---|---|
| 目標・人権教育のねらい | ・高齢者の日常生活の困難さに気付いたり、地域のユニバーサルデザインについて調べたりすることで、共に生きるために自分たちが出来ることを考えられるようにする。<br>・高齢者の立場になって、地域や生活を見直すことで、誰もが暮らしやすい社会を実現しようとする態度を育てる。 |
| 実施した内容 | ・高齢者と関わった経験や、高齢者の日常生活での困難さについて話し合い、課題を見いだす。（２時間）<br>・高齢者・車いす体験を行い、気付いたことや考えたことを整理・分析して発表する。（４時間）<br>・ユニバーサルデザインについて調べ、高齢者の立場から地域や生活を見直すことで、誰もが暮らしやすい社会の実現について考えてまとめ、発表する。（７時間） |
| 工夫した点 | （指導上の工夫）<br>・話合いをする時には、思考の可視化ツール（タブレット端末や付箋等）を活用することで、友達とコミュニケーションを取りながら、自分の考えを表現したり、相手の思いや考えを受け止め、自分ごととして考えられるようにした。<br>・ユニバーサルデザインや地域に注目させることで、共生社会の実現について考えを広げられるようにした。<br>（地域や関係機関との関係）<br>・高齢者体験を実施することで、自分ごととして課題を捉えられるようにした。 |

# 令和７年度　人権教育研究推進事業　＜人権教育研究指定校事業＞

| | |
|---|---|
| 他教科との関連 | 各学年の特別の教科道徳の学習では、高齢者に関する題材を取り上げた。 |

**事業成果**

・知識的側面
「高齢者に関わる課題と共生社会の実現への理解」

・高齢者体験を通して、本を読んだりお金を掴んだりすることが難しい人がいることに気付いた。
・階段を降りることが難しくて驚いた。ゆっくり行動する人のことを待つことが大切だと思った。
・高齢者が大変に思うことを理解できた。

・価値的・態度的側面
「体験活動や調べ活動を通して、高齢者の人権について考え、よりよい社会の実現のために主体的に学習に取り組もうとする態度」

・高齢者が生活しやすくするために、もっとユニバーサルデザインが使われた町になると良い。
・ユニバーサルデザインが使われると、色々な人が暮らしやすくなる。

・技能的側面
「課題に必要な情報を集め、その情報を整理・分析し、相手に伝わるように発表したり、相手の考えを受け止めたりし、自分ごととして考えることができる。」
事業開始時　８５％　　→　事業終了間際：９０％

# 令和７年度　人権教育研究推進事業　＜人権教育研究指定校事業＞

| | | | |
|---|---|---|---|
| 都道府県・指定都市名 | 東京都 | 学校名 | 台東区立千束小学校 |

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 人権課題 | 障害者 | 対象学年・取り扱った教科等 | 第５学年・総合的な学習の時間 | 時数等 | ２３時間 |

| | |
|---|---|
| 目標・人権教育のねらい | ・交流活動や探究の活動を通して、障害や障害のある人への理解を深めるとともに、障害者と共にあるべき自分の生き方について考える。<br>・障害や障害のある人への理解を深め、障害者と共に生きるためにあるべき自分自身の生き方について考えることを通して、全ての人が互いの人権を尊重しながら共に生きていくことができるよう、自分にできることを実践しようとする意欲や態度を育む。 |
| 実施した内容 | ・障害のある人との関わりについて課題を見いだし、解決の方法を考える。（２時間）<br>・パラリンピックについて調べることを通して、障害者の活躍や思いについて理解を深めるとともに、次の課題を見いだす。（７時間）<br>・ゲストティーチャーの講義や体験活動から、障害者の生活や、偏見や差別について知り、考えたことを話し合い、発表することで理解を深める。（８時間）<br>・学んだことを整理・分析し、多様な他者と共に生きるために自分たちができることを考える。（６時間） |
| 工夫した点 | （指導上の工夫）<br>・話合いをする時には、思考の可視化ツール（タブレット端末や付箋等）を活用することで、友達とコミュニケーションを取りながら、自分の考えを表現したり、相手の思いや考えを受け止め、自分ごととして考えられるようにした。<br>・ゲストティーチャーを招いて話を聞いたり、体験学習をしたりすることで、身近な課題として考えられるようにした。<br>（地域や関係機関との関係）<br>・地域の福祉作業所や、障害者の家族として卒業生の保護者にゲストティーチャーとして参画いただき、授業を実施した。具体的には、障害者の生活や、偏見・差別に関わる話を中心にしていただいたり、関係者としての思いを語っていただいたりした。また、福祉作業所の仕事を体験させていただくことで、障害の有無に関わらず活躍している方たちが多くいることを実感した。 |

# 令和７年度　人権教育研究推進事業　＜人権教育研究指定校事業＞

| | |
|---|---|
| 他教科との関連 | ・第４学年の総合的な学習の時間に、高齢者・車いす体験や、ユニバーサルデザインについて調べた。<br>・第５学年体育科では、デフリンピック体験教室に参加し、ゴールボール等の競技を体験した。 |

## 事業成果

・知識的側面
「障害者の現状について理解し、相手の立場や気持ちを尊重して行動しようとする。」

・自閉症の方の話の中に「人の刺すような視線が怖い」とあったけれど、それはみんな同じだと思う。誰に対しても、温かく見守ることを大切にしたい。
・福祉作業所を見学して、障害者の方と会話したり、仕事ができたりして障害者に対する理解が深まった。仕事を実際にやってみると、意外と難しくて、利用者の方はそれを素早くやっていてすごかった。
・障害者の家族の話を聞いて、「自分がされて嫌なことはしないでほしい」という言葉が心に残った。障害の有無に関係なく、誰に対しても同じように関わるようにしたい。

・価値的・態度的側面
「多様な他者との共生社会の実現を目指して、自分たちにできることを考えようとする態度」

・どのような人でも差別せず、優しく見守るなど身近なことからしたいです。
・障害や障害者について、考えたり知ったりすることが大切だと思う。

・技能的側面
「課題に必要な情報を集め、その情報を整理・分析し、相手に伝わるように発表したり、相手の考えを受け止め自分ごととして考えることができる。」
事業開始時　８０％　　→　事業終了間際：８８％

# 令和７年度　人権教育研究推進事業　＜人権教育研究指定校事業＞

| 都道府県・指定都市名 | 東京都 | 学校名 | 台東区立千束小学校 |
|---|---|---|---|

| 人権課題 | 同和問題（部落差別） | 対象学年・取り扱った教科等 | 第６学年・総合的な学習の時間 | 時数等 | ２１時間 |
|---|---|---|---|---|---|

| | |
|---|---|
| 目標・人権教育のねらい | ・皮革産業や食肉処理業務について調べ、その技術や産業に携わる人々の思いを知るとともに、台東区の地場産業で扱われている革を用い、思いを込めて卒業制作に取り組むことを通して、これからの自分の在り方について考え、それらを大切にし、自分にできることを実践しようとする。<br>・皮革産業や食肉市場について調べることを通して、その仕事について理解させるとともに、偏見や差別意識の解消に向けて主体的に行動しようとする態度を養う。 |
| 実施した内容 | ・地域で昔から大切にされてきた革製品について理解し、革製品について興味をもったことについて調べ、発表する。革製品について、さらに理解を深めたいことを話し合う。（４時間）<br>・地域の革に関わる仕事をしている方や、食肉市場で働いている方の話を聞き、考えたことや疑問点について整理・分析する。（１０時間）<br>・学んだことや理解したことを生かして、革を使った卒業制作に取り組む計画を立て、卒業制作に取り組む。（５時間）<br>・卒業制作に込めた思いを発表し合い、自分ごととして出来ることを考える。（２時間） |
| 工夫した点 | （指導上の工夫）<br>・話合いをする時には、思考の可視化ツール（タブレット端末や付箋等）を活用することで、友達とコミュニケーションを取りながら、自分の考えを表現したり、相手の思いや考えを受け止め、自分ごととして考えられるようにした。<br>・卒業制作につなげることで、革製品や革を扱う仕事を身近に感じ、人権課題について考えられるようにした。<br>（地域や関係機関との関係）<br>・地域の革に関わる仕事に携わる方に参画いただき、授業を実施した。具体的には、実際に革や革製品を見せていただいたり、仕事の様子や苦労等について講義をしていただいたりした。また、卒業制作の指導をしていただいた。<br>・食肉市場に携わる方に参画いただき、授業を実施した。具体的には、食肉市場の仕事や、偏見・差別に関わる具体的な状況について講義をしていただいた。 |

# 令和７年度　人権教育研究推進事業　＜人権教育研究指定校事業＞

| | |
|---|---|
| 他教科との関連 | ・第３学年の社会科において、地域の革靴工場について学習した。<br>・第６学年社会科では、差別を受けてきた人々が文化の発展に貢献してきたことについて、意識的に取り上げ指導した。 |
| 事業成果 | ・知識的側面<br>「優れた技術や役割が社会の発展を支えたことへの理解」<br><br>・日本の医療の発展に、差別を受けていた人が活躍していたことを初めて知った。（社会科）<br>・革を扱う仕事はとても大変で、職人さんが工夫や努力を重ねていることが分かった。<br>・自分たちが肉を食べるために食肉市場の仕事が必要で、差別があるのはおかしいと思う。<br>・命を大切に革や肉を扱うことが必要だと思った。<br><br>・価値的・態度的側面<br>「ゲストティーチャーの話から、革に関わる仕事や革製品の良さを知り、学んだことを生かして、卒業制作に進んで取り組もうとする態度」<br><br>・貴重な革が余らないように制作に取り組みたい。<br>・革製品は長く使えることを知ったから、ずっと使えるような作品作りに取り組みたい。<br><br>・技能的側面<br>「課題に必要な情報を集め、その情報を整理・分析し、相手に伝わるように発表したり、相手の考えを受け止めたりし、自分ごととして考えることができる。」<br>事業開始時　８５％　　→　事業終了間際：９０％ |

# 令和７年度　人権教育研究推進事業　＜人権教育研究指定校事業＞

| | | | |
|---|---|---|---|
| 都道府県・指定都市名 | 東京都 | 学校名 | 台東区立千束小学校 |

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 人権課題 | HIV感染者等 | 対象学年・取り扱った教科等 | 第６学年・体育科（保健領域） | 時数等 | ２時間 |

| | |
|---|---|
| 目標・人権教育のねらい | ・HIV・エイズについて正しい知識を身に付けると共に、当事者の立場になって考えたり、正しい知識を身に付けることが、偏見や差別をなくすことにつながることに気付く。<br>・HIV・エイズについて理解することを通して、偏見や差別なく互いの人権を尊重し、よりよい社会を実現しようとする態度を育成する。 |
| 実施した内容 | ・ゲストティーチャーによる講義（１時間）<br>・HIV・エイズや個性の尊重について考え、自分にできることをまとめて発表する。（１時間） |
| 工夫した点 | （指導上の工夫）<br>・話合いをする時には、タブレット端末を活用することで、友達とコミュニケーションを取りながら、自分の考えを表現したり、相手の思いや考えを受け止め、自分ごととして考えられるようにした。<br>・ゲストティーチャーを招いて話を聞くことで、正しい知識を身に付け、課題意識が高まるようにした。<br>（地域や関係機関との関係）<br>・保健師をゲストティーチャーとして招き講義をしていただくことで、興味・関心をもって話を聞いたり、より正しい知識を得たりすることができるようにした。また、個性を大切にすることにも触れていただき、誰もが安心して生活できる社会について考えられるようにした。 |

# 令和７年度　人権教育研究推進事業　＜人権教育研究指定校事業＞

| | |
|---|---|
| 他教科との関連 | 第６学年の社会科の学習では、周りの理解や正しい知識がないために、偏見や差別を受けてきた人がいることを、意識的に取り上げて指導した。 |

**事業成果**

・知識的側面
「HIV・エイズについての正しい知識と、偏見や差別を受けてきたことへの理解」

・HIV・エイズについて初めて知った。予防や治療ができる病気であることが分かった。
・偏見や差別に苦しみながら、それをなくそうと努力した人々がいることを初めて知った。

・価値的・態度的側面
「多様な他者との共生社会の実現を目指して、自分たちにできることを考えようとする態度」

・正しい知識を身に付けることが、偏見や差別を生まないことにつながると思う。
・一人一人の個性を認め合って生活することを大切にしたい。

・技能的側面
「課題に必要な情報を集め、その情報を整理・分析し、相手に伝わるように発表したり、相手の考えを受け止め自分ごととして考えることができる。」
事業開始時　８０％　　→　事業終了間際：８８％

# 令和７年度　人権教育研究推進事業　＜人権教育研究指定校事業＞

| | | | |
|---|---|---|---|
| 都道府県・指定都市名 | 東京都 | 学校名 | 台東区立千束小学校 |

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 人権課題 | インターネットによる人権侵害 | 対象学年・取り扱った教科等 | 第６学年・学級活動 | 時数等 | ２時間 |

| | |
|---|---|
| 目標・人権教育のねらい | ・インターネットの利用に伴う危険性や弊害などを理解し、よりよい人間関係を築くために、節度あるインターネットの利用に向けて意思決定したことを実践していく態度を育む。<br>・インターネットを利用したコミュニケーションに関する問題点について理解を深めることで、人権侵害の実態について考え、自他の人権を尊重し、よりよい人間関係を形成しようとする態度を育む。 |
| 実施した内容 | ・ゲストティーチャーによる講義を聞き、インターネット利用に関する問題点を理解する。（１時間）<br>・インターネットを利用したコミュニケーションの問題点について、課題を整理・分析し、話し合う。（１時間） |
| 工夫した点 | （指導上の工夫）<br>・話合いをする時には、思考の可視化ツール（タブレット端末や付箋等）を活用することで、友達とコミュニケーションを取りながら、自分の考えを表現したり、相手の思いや考えを受け止め、自分ごととして考えられるようにした。<br>・ゲストティーチャーを招き講義を受けることで、自分ごととして課題を捉えられるようにした。<br>（地域や関係機関との関係）<br>・セーフティ教室として警察署の方にゲストティーチャーとして参画していただき、インターネットを利用した問題の実例等を指導していただいた。 |

# 令和７年度　人権教育研究推進事業　＜人権教育研究指定校事業＞

| | |
|---|---|
| 他教科との関連 | ・第６学年の特別の教科道徳の学習では、インターネットを利用したトラブルについての教材を扱った。 |
| 事業成果 | ・知識的側面<br>「インターネットを利用に伴う危険性や、問題点についての理解」<br><br>・自分だけでなく、友達や家族等、様々な人の人権にも関わる可能性があることが分かった。<br>・デジタルタトゥーの様に、一生残る問題に発展する危険性を分かった。<br><br>・価値的・態度的側面<br>「インターネットを利用に伴う問題点を理解し、自他の人権を尊重し、よりよい人間関係を形成しようとする態度」<br><br>・家でルールを決めて、SNSを利用するときには、正しく使えるようにしたい。<br>・インターネットを利用したコミュニケーションだけでなく、友達と遊んだり、話したりすることを大切にしたい。<br><br>・技能的側面<br>「課題に必要な情報を集め、その情報を整理・分析し、相手に伝わるように発表したり、相手の考えを受け止めたりし、自分ごととして考えることができる。」<br>事業開始時　８５％　　→　事業終了間際：９０％ |